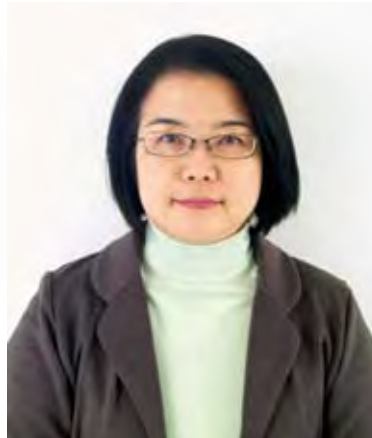


平成25年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」
事業報告書



国立大学法人琉球大学
うない研究者支援センター
University of the Ryukyus
Unai Center for Woman Researcher Support and Development

センター長挨拶



うない研究者支援センター長
喜納 育江

琉球大学男女共同参画室が平成 24 年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、平成 24 年 11 月に発足したうない研究者支援センターも、活動開始から一年が経過しました。平成 25 年度においては、本事業の中心的業務となる研究補助員配置制度の利用者も順調に増え、利用者からは喜びと共に継続を望む声も多く寄せられています。また、各種エンパワメント事業、夏休みの学童保育の試行、また本学の女性研究者を特集したフロントランナー集の発行など、本報告書に記載した地道な活動の数々は、本年度の大学評価においても、本学の男女共同参画への積極性を示すエビデンスとして高く評価されました。ジェンダーに関する社会的通念や偏見をなくし、本学の女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように職場環境を改善すると共に、男女に関わらず育児や介護と研究を両立できるよう支援するという本センターの設立目的に寄せられる皆様の期待にお応えすべく、来年度も引き続きその役目を果たしていきたいと思っております。

女性教員の比率増を目指します。

平成 27 年度末までに、女性教員の在職比率を 17% に上昇させること、新規採用増を目指します。

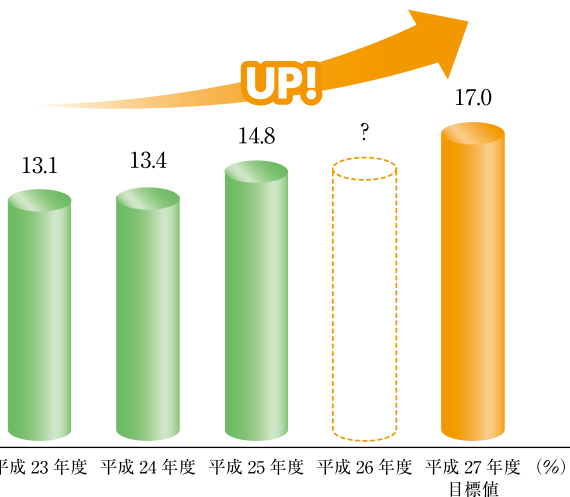
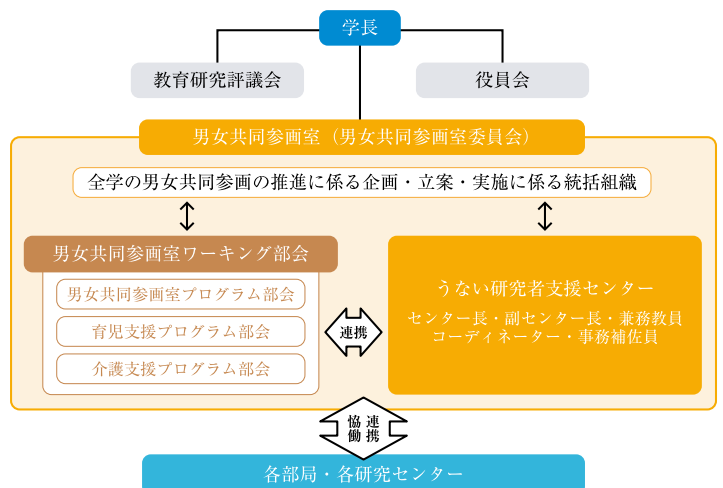


図 女性教員の在職比率と目標値
出典 学校基本調査、琉球大学男女共同参画の推進について～アクションプラン～

組織図



主な活動報告

2013年（平成25年）

- 4/1 【平成25年度第1期募集】研究補助員配置制度開始
- 5/15 第1回 ゆいカフェ開催
- 5/24 第1回 研究補助員配置制度説明会開催
- 5/29 第1回 男女共同参画トップセミナー「男女共同参画のステップアップに向けて」（講師 久保 真季氏、沖縄科学技術大学院大学 副学長）
- 6/15 第3回 スキルアップセミナー「英語論文の書き方」（講師 川上 輪子氏、リンクサイエンス）
- 7/20 オープンキャンパス企画「理系女子集まれ！」開催
- 7/22 第2回 ゆいカフェ開催
- 8/5～9 夏休み学童保育2013「科学とアートを体験しよう」実施
- 9/7 第5回 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin福岡へ参加
- 9/30 第3回 ゆいカフェ開催
- 10/1 【平成25年度第2期募集】研究補助員配置制度開始
- 10/30 第4回 スキルアップセミナー「学会ポスターのつくりかた」（講師 池原 清子氏、機器分析支援センター、技術専門職員）
- 11/6 第1回 うないキャリアデザイン・セミナー「私のシナリオ設計 ～自分自身を幸せにするゴールの作り方～」（講師 宮国 訪香子氏、ライター／プロデューサー）
- 11/11 女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013に参加
- 11/21 「学長と女性研究者との懇談会」を開催
- 11/29 第5回 スキルアップセミナー「英語学術論文を読みこなそう！」（講師 川上 輪子氏、リンクサイエンス）
- 11/30～12/1 第6回 スキルアップセミナー「集中講座 採択される英語論文の書き方」（講師 川上 輪子氏、リンクサイエンス）
- 12/9 第1回 メンターワークショップ（講師 古川 卓氏、保健管理センター、教授）

2014年（平成26年）

- 1/11 沖縄県主催「平成25年度男女共同参画講演会及び出前講座 in 国頭村」への協力
- 1/18 沖縄県主催「平成25年度人権啓発公演会 人権フェスティバル in 南風原町」への協力
- 1/28 第2回 男女共同参画トップセミナー「女性研究者支援・育成の現状と今後の展開」（講師 山村 康子氏、(独)科学技術振興機構科学技術システム改革事業 プログラム主管）
- 2/9 沖縄県主催「平成25年度人権啓発公演会 人権フェスティバル in 久米島町」への協力
- 2/12 第1回 ワーク・ライフ・バランス講座「女性学：働く女のカラダを知る！整える！」（講師 井上 紀子氏、神戸女学院大学教授）
- 2/17 第2回 メンターワークショップ「効果的なコミュニケーション ～聞くコツ・伝えるコツ～」（講師 柿沼 良太氏、インサイトラーニング株式会社）
- 2/19 第2回 うないキャリアデザイン・セミナー「レゴ・ブロックで描くキャリアデザイン」（講師 白井 旬氏、NPO法人沖縄人材クラスタ研究会、代表理事）
- 2/22 第2回 ワーク・ライフ・バランス講座「ボイスワークショップ：子どもと一緒にからだで歌おう」（講師 関口 満紀枝氏、歌手／女優／サロンmicrocosmos代表）
- 3/6 第7回 スキルアップセミナー「英語プレゼンテーション 集中講座」（講師 Dr. Jeffrey Robens、エダンズ、生命科学シニアエディター）

環境整備

女性研究者が仕事と生活を両立できるよう、相談体制や研究支援制度等の環境整備に取り組みました。

研究補助員配置制度

出産・育児または介護等に従事する研究者の研究時間を確保し、研究活動の活性化を促進するために、研究補助員を配置する「研究補助員配置制度」を実施しました。また、本制度を利用する教員は、研究支援を行う研究補助員に対し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた研究やキャリア形成を考える手助けとなるよう監督・指導をおこない、次世代の研究者育成に努めています。

申請対象者

本学に在職する女性研究者または配偶者が研究者である男性研究者で、次のいずれかに該当する方

- 妊娠中の方、または配偶者（研究者に限る）が妊娠中の方
- 小学校6年生までの子を養育している方
- 家族（配偶者・父・母・兄弟・子等）に要介護者、または要看護者がいる方
ただし、産前産後休業中、育児休業または介護休業中の方は除きます。

平成 25 年度研究補助員配置制度利用者数の内訳（人数）

	第一期（4月～9月）		第二期（10月～2月）	
	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護
男性	5	0	5	0
女性	13	5	15	9
小計	18	5	20	9
総計	23		29	

※研究補助員 第一期 37名、第二期 45名

研究補助員配置制度を利用して

留学生センター

佐々木 香代子 准教授

「大ちゃんプロジェクト」は、知的障害を持っている子どもたちのための教材開発プロジェクトで、現在、子どもたちの言語獲得をサポートするための絵教材を開発しています。知的障害児の療育に関わる人たちが誰でも自由に使えるようにすることを目標に、日常生活場面での行動の流れに沿って言葉を提示できるように絵教材を作成しています。

絵教材の絵は、人間の体の動きや向きが自然で、なお且つ子どもにも親しみやすい絵でなければなりません。何よりも、「知的障害を持っている子どもがその絵をどのように解釈するか」ということを私と一緒に考え、それを反映した絵を描いてくださる方が必要でした。そのためには、それなりの能力、キャリアが必要になってきます。この制度のおかげで、美術を専門とする研究補助員に協力していただけることができ、作成した絵教材のHP公開にこぎつけることができました。



「大ちゃんプロジェクト」

<http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~daisukes/index.html>

「夏休み学童保育 2013」の実施

平成 25 年 8 月 5 日 (月) から 9 日 (金) の 5 日間、教職員と学生の仕事 (学業) と生活の両立支援の一環として、「科学とアートを体験しよう!」をテーマとした夏休み学童保育を実施しました。期間中、保育士を常時 4 名配置し、21 名の児童 (保護者 16 名) を受け入れました。体験プログラムでは、研究室協力による与那国馬の乗馬体験と動物観察「牧童になろう!」や DNA 実験、ピオトープでの生き物観察、キッズ・イングリッシュなどを実施し、どのプログラムも子どもたちがいきいきと楽しんでいる様子を見ることができました。

実施後の保護者アンケートでは、「学内で預けることができたので安心した」、「子どもたちが毎日の体験を楽しんでいた」、「今後もこのような学童保育があれば参加したい」という声がありました。しかし一方で、「開所期間や時間を長くしてほしい」、「長時間過ごす子どもたちがリラックスできる部屋を確保してほしい」、「夏季休暇中だけでなく、常時、教職員が子どもを預けられる環境を整備してほしい」などの意見がありました。今後も、様々な意見を取り入れながら、子育て支援を広げていきたいと考えています。



相談窓口・メンター制度

メンターやメンタリングに関心のある教職員や学生を対象に、メンタリングに必要な基礎知識や方法論を学ぶことを目的としたワークショップを開催しました。今後も、女性研究者や女子学生が気軽に相談できるサポート体制を拡充します。

第 1 回メンターワークショップ

平成 25 年 12 月 9 日 古川 卓 教授 (保健管理センター所長)

第 2 回メンターワークショップ 「効果的なコミュニケーション ～聞くコツ・伝えるコツ～」

平成 26 年 2 月 17 日 柿沼 良太 氏 (インサイトラーニング株式会社)

国際学会派遣費用助成事業

女性研究者のキャリアアップを推進することを目的に、国際学会等で研究成果発表を行うために必要な旅費を助成しました。

平成 25 年度採択実績

国際学会派遣費用助成 (上限 15 万円) 3 名

平成 25 年度インセンティブ経費

公募により女性研究者を採用した部局等にインセンティブ経費を配分し、教育や研究活動の環境整備等に使用されました。

インセンティブ経費を配分された部局

- 法文学部
- 教育学部
- 農学部

意識啓発

トップセミナーをはじめとする様々な取り組みを通して意識啓発を行い、男女共同参画推進の強化・充実を図りました。また、今年度は沖縄県などと連携し、地域社会や組織における意識啓発を目的とした男女共同参画講演会などを開催しました。

男女共同参画トップセミナーの開催

大学運営に関わる管理教職員を対象に、女性研究者の育成に係る支援策の充実及び女性研究者の採用数の増加に向けた取組を積極的に推進することを目的とした男女共同参画トップセミナーを開催しました。

第1回トップセミナー

日時：平成25年5月29日（水曜日）14:00～15:30
講師：沖縄科学技術大学院大学 副学長 久保真季氏
演題：「男女共同参画のステップアップに向けて」



第1回トップセミナー（講師 久保 真季氏）

第2回トップセミナー

日時：平成26年1月28日（火曜日）13:30～14:30
講師：独立行政法人科学技術振興機構
科学技術システム改革事業 プログラム主管 山村 康子氏
演題：「女性研究者支援・育成の現状と今後の展開」



第2回トップセミナー（講師 山村 康子氏）

学長と女性研究者との懇談会

平成25年11月21日（木）、男女共同参画室及びうない研究者支援センターは、「学長と女性研究者との懇談会」を開催しました。大学側からは、大城肇学長と外間登美子地域国際連携・男女共同参画担当理事・副学長が出席し、13名の女性研究者が参加しました。

懇談会では、子育てや介護等のライフイベント時にある女性研究者を支援するための研究補助員配置制度の継続、研究環境や就業環境の整備、特に女性研究者在職比率の低い自然科学系分野における女性教員の採用増加、安心して研究活動ができるセキュリティ設備の必要性、男女共同参画推進やハラスメントに対する学内の意識向上等について意見交換をおこないました。



地域連携

沖縄県などと連携し、地域社会や組織における男女共同参画推進の意識啓発を目的とした講演会やパネル展示、女性研究者による出前教室を積極的に実施しました。

- 平成25年8月10日 基調講演（喜納育江うない研究者支援センター長）、シンポジウム「女性力で社会の活性化を～男女が生き活きと暮らせる社会をめざして」（沖縄県主催）
- 平成25年11月4日 講演「琉球大学 男女共同参画への取組」（花城梨枝子男女共同参画室長）、錯体化学会 第63回討論会ランチョンセミナー
- 平成26年1月11日 出前講座「植物は知っている?」（小西照子うない研究者支援センター副センター長）、ワークショップ「考えてみよう!聞いてみよう!～自分らしさ、あなたらしさ」（高橋そよ コーディネーター）、「平成25年度男女共同参画講演会及び出前講座 in 国頭」（沖縄県主催、琉球大学うない研究者支援センター共催）
- 平成26年1月18日 トークセッション（喜納育江うない研究者支援センター長）、「平成25年度人権啓発公演会 人権フェスティバル」（南風原町）（沖縄県主催）
- 平成26年2月9日 トークセッション（喜納育江うない研究者支援センター長）、「平成25年度人権啓発公演会 人権フェスティバル」（久米島町）（沖縄県主催）



「平成25年度男女共同参画講演会及び出前講座 in 国頭」（平成26年1月11日）



人権フェスティバル
（南風原町、平成26年1月18日）

「琉球大学のフロントランナーたち：女性研究者編」の刊行

本学で活躍する女性研究者を特集したフロントランナー集を刊行しました。研究内容やそのきっかけについてインタビューを行うことによって、研究職を目指す学生や若手研究者に向けたあたたかなメッセージが込められた一冊となりました。



「琉球大学のフロントランナーたち：女性研究者編」

男女共同参画関連図書コーナー「うない文庫」(附属図書館常設)

本学附属図書館に、(独)国立女性教育会館の図書パッケージ貸出サービスを利用して男女共同参画関連図書を200冊お借りし、「生き方の多様性を応援する“うない文庫”」を常設しました。ジェンダー学などの授業のための参考図書として多くの方に利用されました。平成26年度以降も定期的に図書を入れ替えし、うない文庫を常設します。

- 第2回 うない文庫「キャリアをデザインしよう！」
平成25年4月12日～6月21日
- 第3回 うない文庫「ジェンダーという視点」
平成25年7月5日～9月17日
- 第4回 うない文庫「この恋のゆくえ～恋人、家族、私のキャリア～」
平成25年10月4日～12月13日
- 第5回 うない文庫「ジェンダーと家族」
平成26年1月16日～2月27日



情報発信 (ホームページの更新やニュースレターの発行など)



ニュースレター
「うない通信」



ホームページ



リーフレット

裾野拡大

オープンキャンパス（平成 25 年 7 月 20 日）

オープンキャンパス企画「輝け理系女子！琉大☆女性研究者支援事業紹介パネル展示」と「女性研究者による“理系女子のための自然科学系分野紹介”」を開催しました。女性研究者による研究紹介では、漢那洋子准教授（理学部 海洋自然科学科化学系）が、実験や身近で応用されている実例をみせながら「光化学」の研究紹介をし、学生時代の経験を織り交ぜながら「自然科学分野・科学技術分野における男女共同参画」についてお話ししました。



附属小中学校での科学教室

自然科学系分野の女性研究者が、興味を持ったことを追及することの重要性、そして科学の面白さや不思議さを伝えるため、附属小中学校の子どもたちを対象に科学教室をおこないました。

附属小学校

- 7/16 「食べるだけではない身近なきのこ」
寺嶋 芳江 教授（熱帯生物圏研究センター）
- 7/17 「大昔は飛べたカイコと、身近な昆虫の不思議」
中島 裕美子 准教授（熱帯生物圏研究センター）
- 7/18 「身近な動物を知ろう！コウモリ博士をめざして」
伊澤 雅子 教授（理学部）

附属中学校

- 7/3 「一緒に科学の不思議をのぞいてみよう！」
漢那 洋子 准教授（理学部）
小野 尋子 准教授（工学部）
名嘉地 めぐみ 特命助教（医学部）



スキルアップセミナー

教員ならびに学生を対象に、研究力の向上を目的としたスキルアップセミナーを開催しました。

第3回スキルアップセミナー

「わかりやすい科学英語ライティングのコツと技法」

平成25年6月15日（土）

講師 川上 輪子氏（リンクサイエンス）

第4回スキルアップセミナー

「～研究内容をより効果的に伝える～ 学会ポスターのつくりかた」

平成25年10月30日（水）

講師 池原 清子氏（機器分析支援センター）

第5回スキルアップセミナー

「英語学術論文を読みこなそう！」

平成25年11月29日（金）

講師 川上 輪子氏（リンクサイエンス）

第6回スキルアップセミナー

「集中講座 採択される英語論文の書き方」

平成25年11月30日（土）・12月1日（日）

講師 川上 輪子氏（リンクサイエンス）

第7回スキルアップセミナー

「英語プレゼンテーション集中講座」

平成26年3月6日（木）

講師 Dr. Jeffrey Robens（エダズ 生命科学シニアエディター）



第3回スキルアップセミナー（講師 川上 輪子氏）



第4回スキルアップセミナー（講師 池原 清子氏）

うないキャリアデザインセミナー

研究職を目指す学部学生や大学院学生のキャリアパス支援を目的とした「うないキャリアデザインセミナー」を実施しました。

第1回 「私のシナリオ設計 ～自分自身を幸せにするゴールの作り方～」

平成25年11月6日（水）

講師 宮国 訪香子氏（ライター／プロデューサー）

第2回 「レゴ・ブロックで描くキャリアデザイン」

平成26年2月19日（水）

講師 白井 旬氏（NPO 法人沖縄人材クラスタ研究会代表理事）



第1回うないキャリアデザインセミナー（講師 宮国 訪香子氏）



第2回うないキャリアデザインセミナー（講師 白井 旬氏）

数値でみる琉球大学の男女共同参画

本学における女性教員の在職比率

本学では、学部学生の約4割が女子学生ですが、大学院学生では約7割減の32.3%となり、大学院へ進学する女子学生が少ないことがうかがえます。さらに、女性教員の比率は14.8%と著しく低く、女子学生と女性教員の比率に大きな差があると指摘できます。

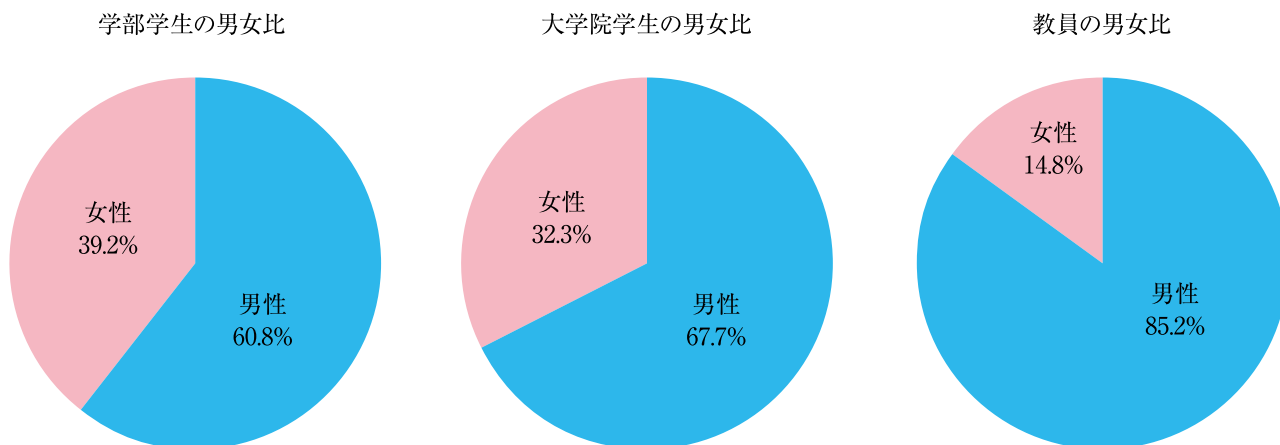


図 本学の男女比（学部学生、大学院学生、教員）
出典 平成25年度学校基本調査（平成25年5月1日現在）

部局女性教員の在職比率

平成25年度の女性教員の在職比率を学部別にみると、10%を下回る部局は、理学部5.9%、農学部4.7%、工学部1.1%となっています。特に、自然科学系分野における女性研究者のさらなる採用率の大幅な増加が望まれます。

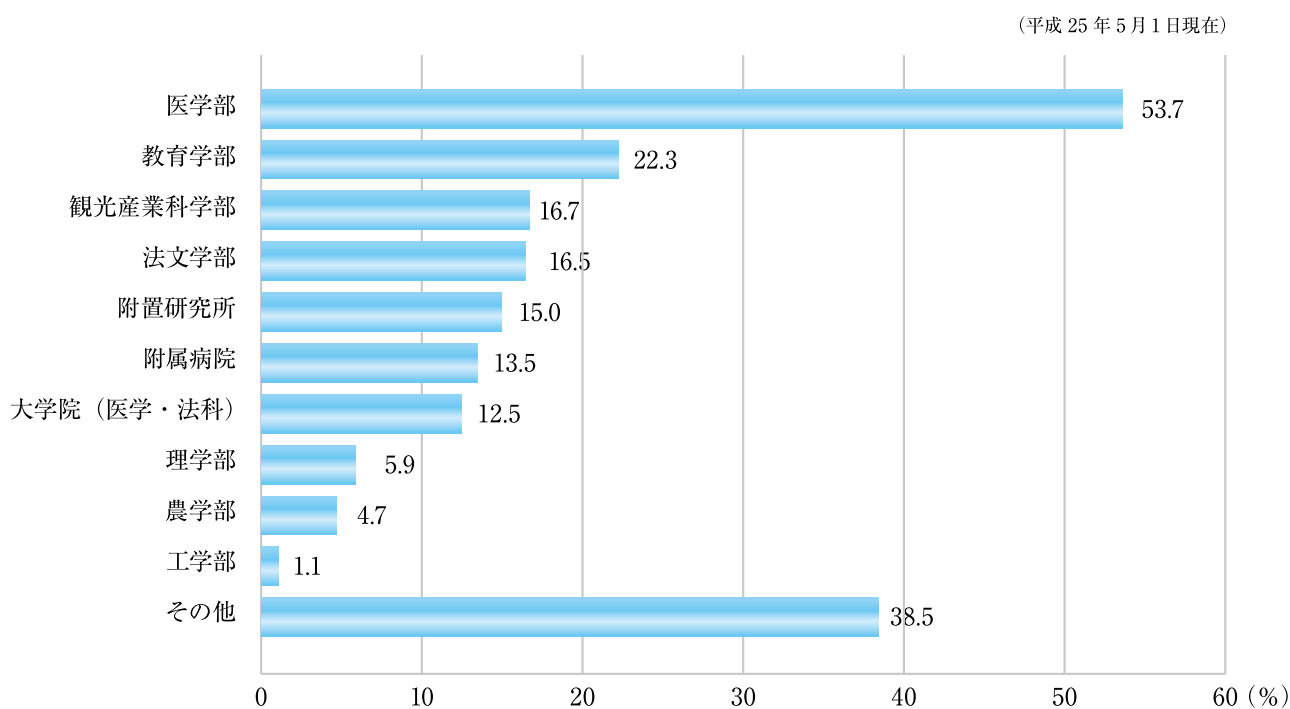


図 本学における女性教員の在職比率
※医学部：保健学科、医学部附属実験実習機器センター、医学部附属動物実験施設及び医学教育企画室
出典 学校基本調査（平成25年度）

メディアで紹介されました

女性活躍へ「補助員」活用

琉球大学 仕事と家庭 両立支援

琉球大学は、女性研究者が仕事と家庭を両立できるように「研究補助員」や相談体制を整え、支援を強化している。文部科学省の「女性研究奨励金」や「女性研究奨励金」を活用し、2017年から年間約100名を確保している。コロナ禍で研究活動が停滞している中、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。また、女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

以上の割合は、4%。女性研究者の増加は、大学の国際化や社会貢献の観点から、非常に重要な課題となっている。また、女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

琉球大学の男女比

学部学生	大学院学生	教員
女性 39.3%	女性 32.2%	女性 13.4%
男性 60.7%	男性 67.8%	男性 86.6%

伝統的「女性力」生かして

男女共同参画シンポジウム講演

講演者：佐藤 美穂さん

講演内容：伝統的「女性力」の活用と、男女共同参画の推進について。女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

講演者：佐藤 美穂さん

講演内容：伝統的「女性力」の活用と、男女共同参画の推進について。女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

講演者：佐藤 美穂さん

講演内容：伝統的「女性力」の活用と、男女共同参画の推進について。女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

▲沖縄タイムス社 平成 25 年 8 月 14 日掲載

「オジャマするわよ」

琉球大学は、女性研究者が仕事と家庭を両立できるように「研究補助員」や相談体制を整え、支援を強化している。文部科学省の「女性研究奨励金」や「女性研究奨励金」を活用し、2017年から年間約100名を確保している。コロナ禍で研究活動が停滞している中、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

講演者：佐藤 美穂さん

講演内容：伝統的「女性力」の活用と、男女共同参画の推進について。女性研究者の活躍を支援するために、研究奨励センターの活用を促進し、研究活動を支える環境を整えている。

▲琉球新報社 平成 25 年 9 月 3 日掲載



◀RBC「沖縄 BON!!」 魅川憲一郎さんのコーナー「オジャマするわよ」(平成 26 年 2 月 1 日)

国立大学法人琉球大学
うない研究者支援センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
国立大学法人琉球大学 うない研究者支援センター
TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8732
Email gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/>

平成 26 年 3 月



この印刷物は環境にやさしい
ベジタブルオイルインキを
使用しております。



古紙配合率100%再生紙を使用しています